

体験型観光起業（海）コースの実施報告と展望

幸田三広* 北風裕教** 岩見靖子*** 岡宅泰邦**** 久保田崇** 森脇千春**

A Report of the Entrepreneur Course for Tourist Industries

Mitsuhiro KOTA, Hironori KITAKAZE, Yasuko IWAMI,
Yasukuni OKATAKU, Takashi KUBOTA and Chiharu MORIWAKI

Abstract

Oshima National College of Maritime Technology is promoting this project to reactivate Suo-Oshima town using fund of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. This is a 5-year project to strategically cope with the anticipated future-profit. In the paper we report the results of the entrepreneur course for tourist industries in this project.

Key words: local reactivation, reactivation of Suo-Oshima town, entrepreneur training, Ministry of Education

1. 緒言

文部科学省科学技術振興調整費、地域再生人材創出拠点の形成に大島商船高等専門学校（以下、本校と呼ぶ）が企画した地域再生案「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」（以下、通称である“島スクエア”と呼ぶ）が平成20年度に採択され、今年度で4年目の活動を迎えた。

我々の地域再生の提案書では、マイクロビジネスの集合体こそが、過疎化・少子高齢化の町でも地域再生に導くことができるという信念のもと、マイクロビジネスの知識を有した人材を養成するための講座を地元の起業を考える希望者へ無料で実施した[1-8]。マイクロビジネスを学ぶために、1つの基礎コース「起業家養成基礎（島）コース」と3つの応用コース「体験型観光起業（海）コース」₁、「体験型観光起業（海）コース」₂、「Web・動画クリエイター養成（空）コース」₃、そして特別コースを設けることでステップアップしながら、起業家マインドを教育する体制を整えている。

一方、本校のある周防大島町では、平成21年度に町長が代わり、町の方針として体験型の修学旅行生の受け入れを島内住民の自宅を開放して行う民泊構想が打ち立てられ、平成23年度では周防大島町で15校、3000人余りの生徒の受け入れが計画されている。しかし、平成22年11月では受け入れ側民家が120軒と少なく、対応しきれない状況にあり、受け入れ民家200軒を目指している。この受け入れを実現するためには、体験型観光のノウハウや民泊経営のノウハウが必要となり、周防大島町での体験型観光の起業を目指す講座の要望が強まった。また、観光事業における安全性や危機管理などの教育の要望も多くなった。しかしながら、これらのノウハウに関しては周防大島町においても未だに十分な情報を収集するまでには至っていない。

そこで本論文では、平成21年度から行っている体験型観光起業（海）コースにおいて、講座運営で蓄積された経験や運営状況についてまとめたので報告する。特に、講座の役割と目標、カリキュラムと修了要件など概要を含め、これまでの受講者の受講状況、授業の様子など講座を実施する上で明らかになった点や、工夫した点、受講生のアンケート結果などを記した。また、今後の本校における運営の在り方、問題点を考察し、体験型観光事業におけるマイクロビジネスとしての展望についてまとめたのであわせて報告する。

2. 地域再生における体験型観光起業(海)コースの概要

ここでは、体験型観光起業(海)コースの概要として、その役割と目標、カリキュラムと修了要件、受講希望者と希望理由、講座履歴と授業の様子について記述する。

2.1 体験型観光起業(海)コースの役割と目標

体験型観光起業(海)コースは、周防大島町の豊かな資源を活用した体験交流ツアーや農家・漁家民泊などの実現を目指すコースである。周防大島町や瀬戸内海をフィールドにした観光事業や農業・漁業体験の実現を目指す方を対象にし、将来は周防大島町や瀬戸内海をフィールドにした観光事業の実現と、これによる地域の活性化につなげる。

2.2 カリキュラムと修了要件

表1に平成23年度の体験型観光起業(海)コースのカリキュラムを示す。島スクエア事業の応用コースが開始された平成21年度では、講座は全14回の講座であったが、平成22年度からは、3講座減らした全11回の講座へ修正し、CONE自然体験活動リーダー(以下、CONEリーダー)の資格を目指す4回の特別講座を設けた。CONEリーダー資格は、ボーイスカウトやガールスカウトの上位組織となり、日帰りで10人程度の少人数を身近な自然に案内する役割を持ち、自然の中でともにふれあい、さまざまな体験活動を豊かに、安全にできるように手助けを行うことができる資格に相当する。これは、周防大島町が目指す民泊による体験型観光事業の展開には必要不可欠な内容である。我々は、体験型観光起業(海)コースとCONE自然体験活動リーダー養成特別講座を組み合わせることで、民泊受け入れを実現できる教育体制を整えた。

講座は、体験型観光概論など講義を中心としたものから、商品造成実習などのフィールドワーク、事業計画書作成、プレゼンテーション、資格取得訓練まで幅広く楽しく行うことができる内容となっている。

体験型観光起業(海)コースの修了認定基準は、次の3つの条件を全てクリアすることとした。条件1は出席に関する条件であり、条件2と条件3は内容に関する条件である。出席に関しては、出席率80%という高い出席率を要求した。受講生の多くが働きながら講座を受講しているため、修了できる受講生は限られた者だけになる。このことを配慮し、DVD受講を認め、後日視聴後に講師によって与えられたレポートを記述し提出してもらうことで、出席扱いとした。ただし、条件2と条件3に関しては、起業のために必要な基礎知識の習得項目として必要であることから、軽減措置はとらないものとした。

体験型観光起業(海)コースの修了要件

条件1

講座への出席率が80%以上である。ただし、この出席率80%の中には、DVD受講出席を含む。DVD受講出席とは、欠席した講義を撮影したDVDで自習してレポートを提出し、講座担当者が受理したものを指す。また、全講義の50%以上(6回以上)が実出席でなければならない。

条件2

自身の起業プランに基づく事業計画書を作成して提出し、講師、戦略委員、運営委員の評価を受けること。

条件3

最終講義において、講師、戦略委員、運営委員の前で事業計画をプレゼンテーションし、瀬戸内海をフィールドにした新規事業の立ち上げや新規サービスを開発できるレベルに達しているか否かの評価を受ける。

表1 体験型観光起業(海)コースのカリキュラム

日時	講座名	講義内容	講師	場所
6月11日(土) 13:30-16:30	体験型観光概論 (体験型観光の現状)	従来の観光の現状及び課題から、体験型観光の必要性などを学ぶ。 体験型観光の持つ特性及び可能性を全国の事例から学ぶ。	養父信夫 佐藤美智子 スタッフ	大島商船高専
6月18日(土) 13:30-16:30	体験型観光概論 (体験型観光事業のモデル と事業化について)	体験型観光における事業の収益構造を学ぶ。 ワークショップにおいては、新たな収益モデルの協議及び収益構造の構築を行う。	北島淳朗 坂元英俊 スタッフ	大島商船高専
		(必要により実習・補講・特別講義)		大島商船高専
6月26日(日) 9:00-16:30	商品造成実習 / 基礎 (フィールドワーク)	フィールドワークにおいて、対象地域の資源の洗い出し・整理を行う。	坂元英俊 スタッフ	大島商船高専
7月2日(土) 13:00-17:30	商品造成実習 / 応用 (ワークショップ)	基礎編にて、調査整理した資源を活用したプログラムの造成及びそれらに関わる人(地域住民)においてヒアリング(インタビュー)を行い、プログラム活用の可能性を精査する。	坂元英俊 スタッフ	大島商船高専
7月9日(土) 13:30-16:30	体験型観光商品造成基礎	体験型観光の特性とも言える商品の性質及び種類を学ぶ。また、こういった商品を扱う上での収益構造もあわせて学び、実際の観光商品造成も行う。	北島淳朗 スタッフ	大島商船高専
7月16日(土) 13:30-16:30	体験型観光商品造成応用 (地域づくり・ネットワーク)	起業する上で、必要となる取り扱い商品の企画・商品化についてのスキルを学ぶ。また基礎編で造成した観光商品を販売する上で、必要な地域づくりとの関係性や、商品の活用に関わるネットワークについて学ぶ。	北島淳朗 スタッフ	大島商船高専
7月23日(土) 10:00-17:30	体験型観光商品検証	体験型観光商品造成基礎・応用で造成された商品のスタッフ検証、有識者をまわいての実践シミュレーション	北島淳朗 特別講師	大島商船高専
7月30日(土) 13:30-16:30	体験型観光 事業計画策定 前編	基本的に、個別指導の時間として想定。個人別事業プランの作成指導。	坂元英俊 スタッフ	大島商船高専
8月6日(土) 13:30-16:30	体験型観光 事業計画策定 中編	基本的に、個別指導の時間として想定。個人別事業プランの作成指導。	坂元英俊 スタッフ	大島商船高専
8月27日(土) 13:30-17:30	体験型観光 事業計画策定 後編	基本的に、個別指導の時間として想定。個人別事業プランの作成指導。	北島淳朗 坂元英俊 スタッフ	大島商船高専
8月28日(日) 9:00-12:00	体験型観光事業計画発表	カリキュラム全編終了における集大成となる事業計画の発表。	北島淳朗 坂元英俊 戦略委員	大島商船高専
		(必要により実習・補講・特別講義)		
9月3日(土) 13:00-17:30	自然体験活動資格取得 ／前編(特別集中講義)	CONE 自然体験活動リーダー養成講座	山口久臣 北島淳朗	大島商船高専
9月4日(日) 9:00-16:00	自然体験活動資格取得 ／前編(特別集中講義)	CONE 自然体験活動リーダー養成講座	山口久臣 北島淳朗	大島商船高専
9月10日(土) 13:00-18:00	自然体験活動資格取得 ／後編(特別集中講義)	CONE 自然体験活動リーダー養成講座	山口久臣 北島淳朗	大島商船高専
9月11日(日) 9:00-16:00	自然体験活動資格取得 ／後編(特別集中講義)	CONE 自然体験活動リーダー養成講座	山口久臣 北島淳朗	大島商船高専

2.3 受講希望者と希望理由

受講生の募集は、広報誌の掲載や新聞の折り込みなどによって募った。受講生には、事前に講座の説明会を実施することで、講座の役割・目的などの趣旨を十分に説明し、カリキュラムと修了要件を十分に理解してもらった。さらに、面接を行い志望動機が本プロジェクトを遂行する上で問題がないか、開発を望む商品が本校スタッフによって円滑に指導をできる内容であるかを事前に確認し、受講生の決定を行った。

平成21年度から平成23年度までの受講生数と修了生数、および途中辞退者数を表2に示す。この結果から、体験型観光起業（海）コースは、途中辞退者が平成21年では2名であったが、平成22・23年度では、カリキュラムの修正などにより講座を改善したことから、0名へと減少させることができた。

表2 受講者数と修了者数

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
受講者数	11名	10名	9名
修了者数	9名	10名	9名
途中辞退者	2名	0名	0名

表3に修了生の年代別の表を示す。この結果から、60代・50代の年代の方が非常に多く受講していることが分かる。他の応用コースでは見られなかった70代の方の参加もあった。一方、10代・20代・30代といった若い世代の受講生が少ない傾向が見られた。現在までに28名の受講生が修了した。

表3 修了生の年代別

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計
70代	1名	0名	0名	1名
60代	3名	5名	4名	12名
50代	4名	1名	1名	6名
40代	0名	1名	0名	1名
30代	0名	2名	3名	5名
20代	1名	1名	1名	3名
10代	0名	0名	0名	0名
合計	9名	10名	9名	28名

2.4 授業の様子

図1に体験型観光起業（海）コースの授業風景を示す。授業は座学だけでなく、フィールドワークといった実技・実習も含まれている。



図1 体験型観光起業（海）コースの授業風景

3. 体験型観光起業(海)コースの実施結果

平成 21 年度からこれまでにやってきた体験型観光起業(海)コースについて、受講生による講座の評価、および講座従事者(養成従事者)による講座の評価、戦略委員、評価委員などによる講座の評価を示す。

3.1 受講生(被養成対象者)によるアンケート集計結果

平成 21 年度、22 年度、平成 23 年度の受講生による講座のアンケート調査を行った。項目は、次に示すからとした。毎回の講座の終了時にアンケート調査を行い、5 段階評価(数字が高い場合が良い)で提出してもらった。

アンケート調査項目

- 講師の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか
- 講師の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか
- 講義は適切な進度ですすめられていましたか
- 講義の内容には、準備・工夫がなされていましたか
- テキスト・配布資料は講義を理解するのに役立ちましたか
- 授業を進める中で、疑問があれば質問しやすい雰囲気でしたか
- 講義のレベルは適当でしたか
- この講義によって、起業に対するあなたの興味や関心が深まりましたか
- 総合的に見てこの講義を高く評価していますか
- あなたはこの講義に熱心に取り組みましたか

アンケート調査結果を図 2 に示す。この結果は、各回の講座の合計を平均した結果である。この結果、平成 21 年度よりも平成 22 年度の方が、平均が高く良い評価となったが、平成 23 年度では全体的に平均が下がり低い評価であった。平成 23 年度の結果が下がった理由については、カリキュラムを含め様々な角度から分析を行い、プロジェクト最終年度の平成 24 年度には、高い評価を得るように努めていきたい。

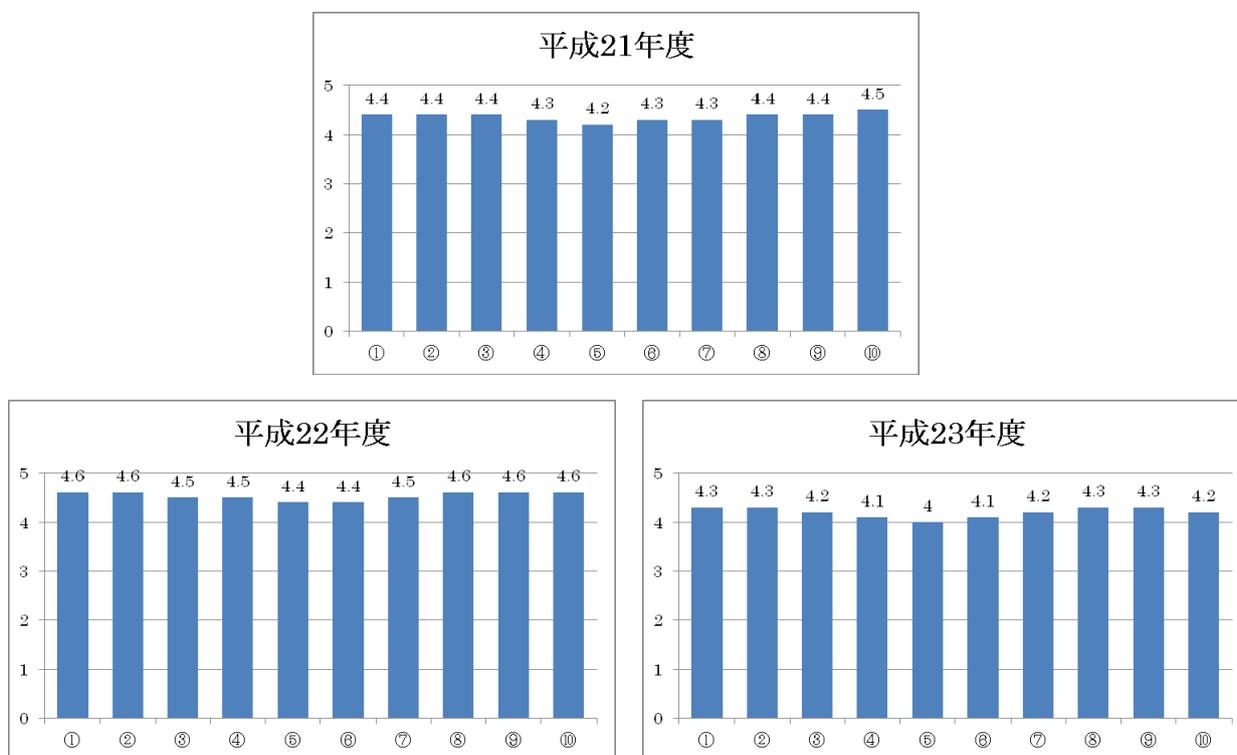


図 2 体験型観光起業(海)コースの受講生アンケート結果(受講生平均)

3.2 受講修了生の事業プラン

平成21年度、平成22年度の修了生のうち、実際に起業に結びついた3組の事業内容と事業進捗状況を表4に示す。3組とも講座開始前から起業への意識が非常に高い。各々の事業に対して明確なプラン設計が行われており、起業の準備がある程度出来ている受講生であった。彼らは、本講座の受講によって、事前準備では不十分な課題を洗い出すことができ、観光資源を活用した斬新なアイデアを事業プランに取り入れることができた。また、事業展開に向けての緻密で正確な事業計画書作りが、実際に起業を踏み出し展開する際に極めて役立った。

表4 受講生の事業プラン

番号	受講年度	性別 年代	所属等	事業内容・事業進行状況
1	平成 21年	60代 夫妻	地域活性化 協議会 げんきや和 (なごみ)	<ul style="list-style-type: none"> ■事業内容 「もう一つ上の自分になる」モアアップスクール ■事業進行状況 <ul style="list-style-type: none"> ・体験学校 ・手作り教室の運営 ・和田地区の集落散策プログラム作成実行 ・和田地区の地産品の店頭ならびにネット販売 ・和田地区の農業漁業体験のコーディネート ・なごみや「和」で体験型観光起業を開始
2	平成 22年	50代 男性	日積観光 ぶどう園 「瀬戸の太陽」	<ul style="list-style-type: none"> ■事業内容 日積観光ぶどう園「瀬戸の太陽」 ■事業進行状況 笑顔を交換する「感好ぶどう園」にする。収穫の喜び・楽しさの提供、おいしい、安心なぶどうを提供。 楽験（楽しく体験）ぶどう狩り 直産・ネット販売 米等の委託販売 柿・ブルーベリー狩りへの展開
3		60代 男性	島旅コンシェル ジュミをつくし	<ul style="list-style-type: none"> ■事業内容 「島旅コンシェルジュミをつくし」 ■事業進行状況 周防大島の自然・文化・暮らしを知り、活かし、そして守る：周防大島でこれまで開発されてきた多様な資源や施設を活用し結び付け「60歳代向けのお遍路2日間コース」「新鮮海の幸日帰りコース」などの、癒しと憩いになるような様々な小人数パックを開発する。ガイドとして案内する。営業マンとして観光誘致・集客を行う。

3.3 養成従事者(講師、戦略委員、評価委員)による運営の反省点

養成従事者を対象にアンケート調査を行った。調査項目は、12項目(実施コンセプト、講義日程、講義内容、スタッフ、講師、場所や設備、実施方法、講義資料、成果、受講生の募集、受講生の決定)についての自由記述である。養成従事者スタッフの大半は、体験型観光起業(海)コースのスタッフは起業家教育の経験が少ないため、全国から体験型観光の養成教育で活躍する事業家等を講師に迎え、講座運営にあたっている。

初年度の平成 21 年度の体験型観光起業(海)コース 1 年目の反省点として、「コンセプトが周防大島町と一致していない」、「養成教育の講師およびスタッフの多くが本校学内の教員ではない」、「成果としてはカルチャースクールにおける養成程度」、「民泊講習に対しては、商工観光課が協力的ではない」等の意見が挙げられた。

この問題に対し、周防大島町商工観光課と話し合い、周防大島町が地域再生の柱として打ち出している体験型修学旅行生の受け入れ事業(民泊)において本校の島スクエアが連携することと、そのために、体験型観光起業(海)コースが最も近いコースであることから、民泊を含めた起業について次年度のカリキュラムに取り入れていくことが話し合われた。よって、次年度の平成 22 年度では、コンセプトも周防大島町に合わせた内容とし、カリキュラムが編成された。また、講師およびスタッフにおいては、極力本校スタッフが活動できる体制へと整えている。また、体験型観光起業(海)コースの修了生を対象に、ボーイスカウト・ガールスカウトの上位組織である CONE リーダーの資格取得のできる特別講座を設けることにより、養成のための価値を見出した。このような点から、平成 22 年度では、養成従事者からは、マイナス面に関する問題提議が挙げられなかった。

4. 体験型観光起業(海)コースの今後の展望

本プロジェクトは 5 年間の大型プロジェクトである。現在までに 3 年半の月日が流れておりカリキュラムも修正を重ねることで、より良い講座の実現がなされてきた。残念なことに、開始から 5 年後のプロジェクト終了後には予算がない状況となる。体験型観光起業(海)コースの講座においてはメインで活躍する講師陣の多くは、体験型観光事業の教育を専門職とされる県外の方々であったため、多くの予算が利用できた。プロジェクト終了後には、予算の面を考えても、このままの講座を維持することができないといえる。したがって、本校の教職員だけで講座運営における維持が求められるが、本校教職員は体験型観光事業に関しては専門外となるため、本校での維持は困難であると予想される。

一方で、周防大島町では、民泊経営による修学旅行の受け入れに力をいれており、これから本格的に活動がなされようとしている。町は本校が行ってきた体験型観光起業(海)コースの維持を強く望んでおり、教育面で連携をとることで 200 軒の民泊を目指している。

そこで、今後は周防大島町に拠点を移行していき、周防大島町政策企画課を中心とした活動にすることで、本校でこれまでに培ってきたノウハウを引き継ぐことができないかを検討していきたい。

5. 結言

文部科学省科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成における本校の地域再生プロジェクト島スクエアにおいて、マイクロビジネスの増加による地域再生を実現するために、体験型観光起業(海)コースでは、3 年に及ぶこれまでの実績から体験型観光を含む民泊経営などに着目して起業家を養成できるしくみづくりを行ってきた。これまでに、28 名の優秀な修了生を輩出している。そのうち、1 名はこれまでの事業をさらに展開し、2 名が新規で起業を行った。また、3 名が起業に向けて準備をしている段階である。その他に、2 名の修了生が講座で身に付けた知識によって、島内の就職が決定した。このように、現在では島内における体験観光型事業において多大な活躍を見せている。

プロジェクト開始から 5 年で予算配分が終わりプロジェクトは終了するが、これまでの修了生の人的なネットワークは生き続け、新たに生まれた体験観光プランも、周防大島町で発展していくことが期待される。我々は、今後の予算配分終了後も何らかの形で体験型観光起業(海)コースを維持できるようなしくみづくりを行っていき、更なる発展のために尽力していきたいと考えている。

謝辞

本活動は、文部科学省科学技術戦略推進費(旧名称:科学技術振興調整費)、地域再生人材創出拠点の形成の補助事業として行った。記して、感謝の意を表す。

参考文献

[1] 岡野内悟, 宮元章, 北風裕教, 「島スクエア」の活動と地域貢献への一考察, 平成 23 年度全国高専教

- 育フォーラム教育研究活動発表概要集，G-63，pp.125-126，2011
- [2] 吉留文男，宮元章，森脇千春，山本信夫，島スクエアジュニア - 人材育成のしくみの構築 - ，平成 23 年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集，G-614，pp.127-128，2011
- [3] 北風裕教，山本信夫，岡宅泰邦，瀬戸内島嶼部における地域再生事業”島スクエア” ，映像情報メディア学会アントレプレナー・エンジニアリング研究会技術報告，Vol.34，No.51，pp.27-32，2010
- [4] 北風裕教，岡野内悟，石原良晃、岡村健史郎，幸田三広，吉留文男，岡宅泰邦，地域再生人材創出拠点の形成”島スクエア”の中間報告，大島商船高等専門学校紀要，第 43 号，pp.1-12，2010
- [5] 北風裕教，神田全啓，岡宅泰邦，地域再生を目的としたインターネットテレビ局の活動報告，大島商船高等専門学校紀要，第 43 号，pp.13-20，2010
- [6] 三原伊文，石光冨介，山口伸弥，古賀英司，嶋津裕樹，内田誠、藤本正明，地域イノベーションを目的とするハイブリッドガラスボードの性能，大島商船高等専門学校紀要，第 43 号，pp.25-30，2010
- [7] 岡野内悟，石原良晃，岡村健史郎，幸田三広，吉留文男，北風裕教，岡宅泰邦，「島スクエア」3 年目の方針と実施状況，大島商船高等専門学校紀要，第 43 号，pp.31-34，2010
- [8] 北風裕教，宮元章，岡野内悟，岡村健史郎，岡宅泰邦，地域再生を目的とした産学官連携の活動報告，大島商船高等専門学校紀要，第 42 号，pp.1-10，2009